

田舎暮らしに何を求めていたのか。 その答えがここにありました。

静岡県浜松市天竜区北西部。周囲を山々に囲まれ、天竜川の支流・阿多古川の最上流部に位置する熊（くま）地区。自然豊かで、街というより村といった風情の小さなこの地区の明るく元気な人々に惹かれ移り住んだ矢野陽介さんと科豆沙（かずさ）さんご夫妻にお話をうかがった。

文：鹿島文俊 撮影：柳大輔

3年前、結婚を機にくんまに移住してきた矢野さんご夫妻。陽介さんはこれまで大手経営コンサルタント会社に勤務し、東京、名古屋、海外で多忙な毎日を送っていた。経済至上主義に疑問を感じるようになり、経営コンサルタントを志した初心を振り返る中で、次第に暮らしの場を田舎へ移そうと考えた。そんな折、天竜区役所からの情報提供で、地域のNPO法人と行政が連携して取り組む



小さな家庭菜園を自分たちで管理。野菜を育てたことがなかったが、あまりの美味しさに基本的な野菜は自給している。



「熊地区は自然豊かで、街というより村といった風情の小さなこの地区の明るく元気な人々に惹かれ移り住んだ矢野さんご夫妻にお話をうかがった。」



標高約600mにある自宅は、窓を開け放せば風が通るので扇風機で充分なほど。ご主人曰く、「5℃は涼しい」。冬は東京と大差ないとのこと。

「くんま田舎暮らし体験交流会」を知り参加。中山間地の環境に最初は驚いたが、立ち寄った道の駅「くんま水車の里」で働く地域の女性たちの活き活きとした姿、歓迎してくれた地域の人たちと語る中で、自分が田舎暮らしを考える根源は、人との絆にあると気づき、その場で移住を決意したという。

故郷がなくなるという思いから生まれた地域の団結

熊では全戸加入型のNPO法人が認証されており、平成元年農林水産祭むらづくり部門で「農林水産大臣賞」「天皇杯賞」を受賞する等、地域づくりにおいて全国的に有名な地域だ。林業、茶業等が生業だったこの地の過疎化が進み始めた昭和50年代。このままでは故郷がなくなるという思いから、何かできないかと、生活改善グループの女性らを中心に行政、地域が一丸となり、様々な活性化事業を行ってきた。「道の駅くんま水車の里」もその一つ。

「そんな風土に直感的に惹かれたのでしょね。人も物も替えのきかない小さな地域だからこそ、なんとかしようと思っただけに工夫を凝らし、力を合わせる。経済を追求する会社では『こんな人は要らない、無駄なことをしていたら儲からない』といったことがあるけれど、ここでは、今いる人、今ある物で、いかに良い結果に繋げていくかを

必死に考える。時には衝突もしながら、皆で苦楽を共に歩んできた結果が、田舎暮らし体験交流会で触れた笑顔なのだと思いを届けた「した」

まずは地域の田舎暮らしお試し住宅に入居し、周囲の人と親しみながら空き家を探すことに。経営コンサルタンの仕事も経済偏重の考えから新たな暮らしに合わせ刷新。現在の家には一昨年3月に移り住んだ。

ジュエリー作家の科豆沙さんは、結婚まで東京・西荻窪の工房で制作してきたが、移住を機に独立。現在は、自宅に工房を構える。

「独立した今でも東京の工房との仕事はしていますが、それだけではなく、田舎での自分なりの仕事を作り出さない」と

ここでは自然、そして人からも刺激を受ける

今では地域の人たちと連携し、自宅の他にも道の駅や古民家、農家民宿等で気軽に参加できるジュエリー教室や展示会も開催している。「田舎へ来てもらって、みんなのんびり楽しめることがしたい」と始めたジュエリー教室は、熊を訪れるひとつのきっかけになっています。お客さんがまたお友達を連れて遊びにきてくれますし、皆さんとても良くしてくださいませ」

自然そのものから受ける創作への刺激だけでなく、ここで暮ら



上・自宅にある工房で指輪を制作する科豆沙さん。下・「くま水車の里」内の「くまふれあいの家」さまざまな催しが企画され、地域内外の人々の交流・情報センターとしての役割を果たしている。



「昔は街道沿いの宿場町。先祖代々、通行人をもてなして来たからか、富、開放的なところがあります」

URNS

カフェしずおか開催!

矢野さんご夫妻を始めとする先輩移住者とのトークと交流会です。

11月8日(土)

東京交通会館ビル 9F
第一プログレス コミュニティスペース
東京都千代田区有楽町2-10-1

参加者募集中!

お申し込みは以下のページから 詳細は順次更新します!
<http://turns.jp/shizuoka/>

Facebookでも最新情報配信しています!
<https://www.facebook.com/turns.fan>

カフェしずおかのあとは、移住相談会へ!
「富士の国ふるさと暮らし相談会」

山梨県との合同移住説明会開催!

11月29日(土)・30日(日)

横浜市技能文化会館

※詳細は静岡県移住・定住情報サイト
「ゆとりすと静岡」に随時UPします。

<http://iju.pref.shizuoka.jp/>

ゆとりすと静岡 で検索



右・地域づくりにも活動の場を広げる陽介さん。「道の駅くま水車の里」にて特産品の新パッケージに関する意見交換。左・物産館「ぶらっと」で売られているおすすめの特産品。



全線細工にメレダイヤをちりばめたアンティーク調の結婚指輪は科豆沙さんが手づくりしたもの

している人たちからも刺激を受けていると感じている。移住して3年、陽介さんは現在の心境をこう語る。「ウグイスが鳴けばご機嫌になるし、採れたての野菜が美味しいことを知れば作りたくなる。旨いアユを食べれば清流にも興味がいく。自然と共にある暮らしが人として忘れてはいけない何かを教えてください。それが自分や仕事に良い作用を及ぼしているようで、ここに来たことで、暮らしや仕事に根っこが出来たように感じます。あなたも歓迎していただきます」